

# 中央区内景气动向调查

平成31年2月调查结果

平成31年3月27日

中央区

## 総 括

### 平成 31 年 2 月の動き

中央区内における 2 月の現状判断 D I は合計で 48.0 と、前回調査から 4.0 ポイント低下している。景気の先行き判断 D I は合計で 46.0 と前回調査から 2.0 ポイント低下している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

( D I )	平成30年	平成31年		前回調査
合計	10月	12月	2月	からの変化
現状判断 D I	50.0	52.0	48.0	( -4.0 )
先行き判断 D I	53.5	48.0	46.0	( -2.0 )

## 目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

## 調査の概要

### 1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

### 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

### 4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、平成31年2月調査の調査票発送は2月7日（木）、回答期限は2月15日（金）である。

### 5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

### 6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は50名、有効回答率は100%であった。

### 7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

# 1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で48.0と、前回調査から4.0ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは47.0と、前回調査から6.0ポイント、企業動向関連DIは49.0と、前回調査から2.0ポイント、それぞれ低下している。構成比では、「やや良くなっている」と回答した人の割合が8.0ポイント減少し、「変わらない」、「悪くなっている」と回答した人の割合がそれぞれ4.0ポイント増加した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

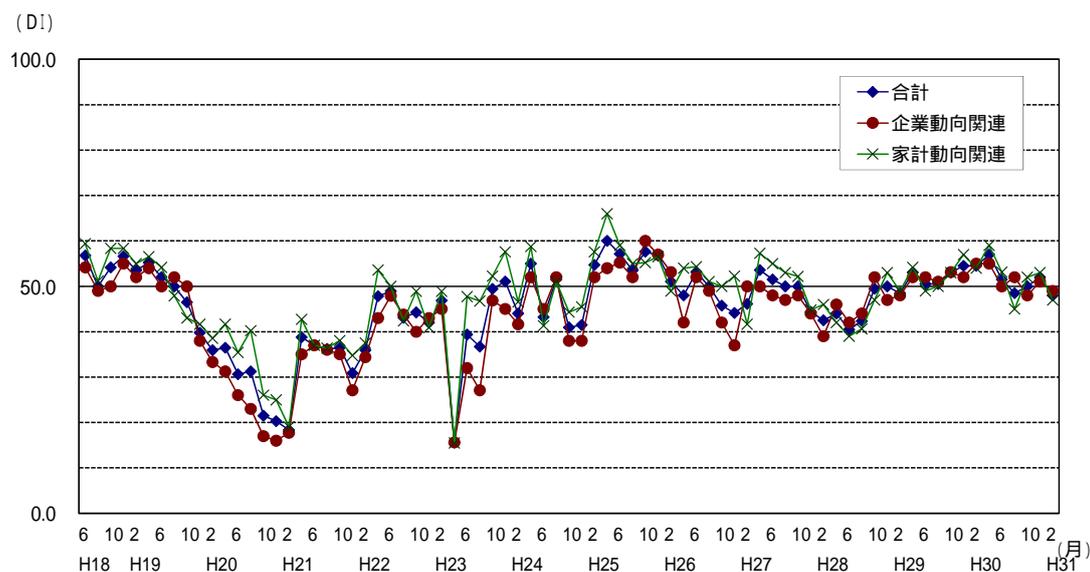
(DI)	平成30年		平成31年		(変化幅)
	10月	12月	2月		
合計	50.0	52.0	48.0		(-4.0)
家計動向関連	52.0	53.0	47.0		(-6.0)
小売関連	46.4	50.0	37.5		(-12.5)
飲食関連	-	-	-		(-)
サービス関連	57.1	53.6	64.3		(10.7)
住宅関連	-	-	-		(-)
企業動向関連	48.0	51.0	49.0		(-2.0)
製造業	50.0	45.0	40.0		(-5.0)
非製造業	47.5	52.5	51.3		(-1.2)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
平成30年	10	4.0%	22.0%	46.0%	26.0%	2.0%
	12	2.0%	28.0%	46.0%	24.0%	0.0%
平成31年	2	2.0%	20.0%	50.0%	24.0%	4.0%
	(変化幅)	(0.0)	(-8.0)	(4.0)	(0.0)	(4.0)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移





### 3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

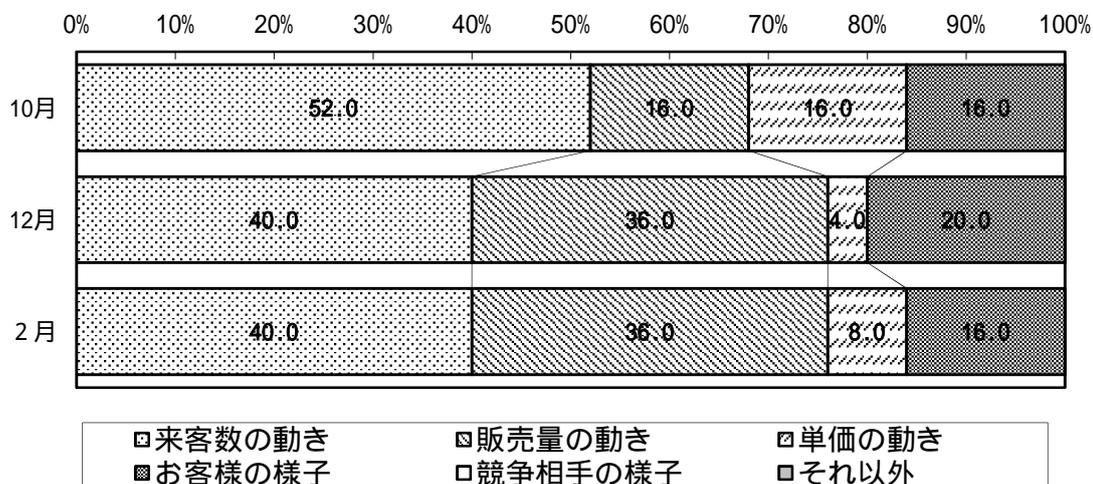
(D I)	平成30年		平成31年	
	10月	12月	12月	2月
合計	49.0	54.5	54.5	47.0
家計動向関連	47.0	54.0	54.0	44.0
小売関連	41.1	51.8	51.8	33.9
飲食関連	-	-	-	-
サービス関連	53.6	57.1	57.1	60.7
住宅関連	-	-	-	-
企業動向関連	51.0	55.0	55.0	50.0
製造業	45.0	50.0	50.0	35.0
非製造業	52.5	56.3	56.3	53.8

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

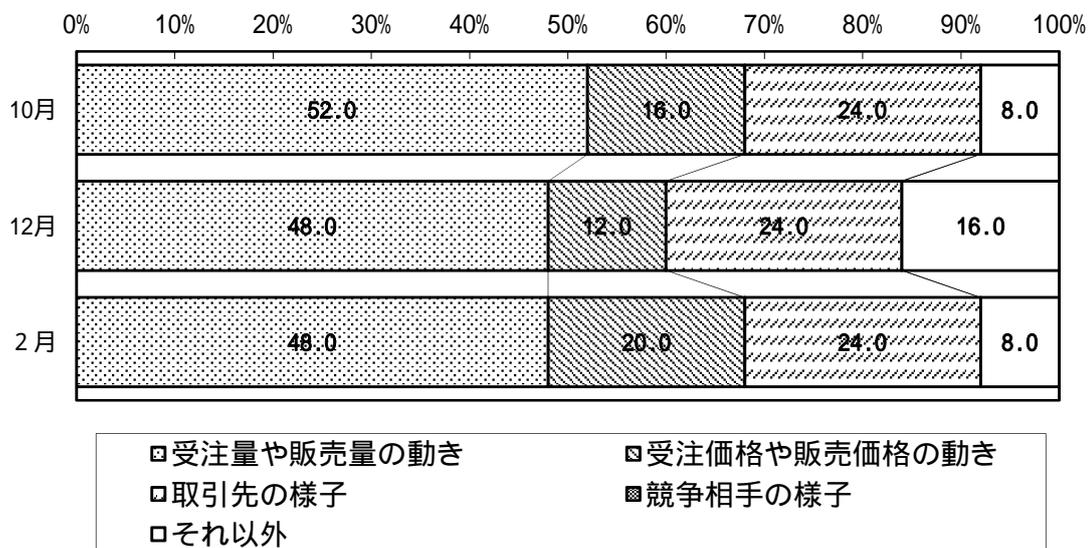
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

## 4 (1) 景気の状態に対する判断理由着目点

### 家計動向関連



### 企業動向関連



注) 本グラフは景気の状態に対する判断理由着目点の構成比を示している。  
割合が0%の場合、数値は表記していない。

## 4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・近隣地区の再開発や建替が進んでいることが来客数の増加につながっている。また、客単価も上昇傾向にあり、想定以上の売上が続いている。消費者の高級志向と本物志向が強まってきていると感じる。
		高級レストラン (副店長)	単価の動き	・前年2月と比べて今年は来客数、単価共に良くなっている。
		旅行代理店 (店長)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク10連休という要素がある。
		通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・移動が増える2～3月の繁忙期に入り、販売量に動きが見られるようになってきている。
	変わらない	一般小売店 [事務用品] (営業担当)	販売量の動き	・例年、年度末に向けて売上が伸びてくるが、今年は余り伸びていない。天候の影響もあると思うが、動きが良くない。
		一般小売店 [文具] (販売担当)	お客様の様子	・12月は外国人客、日本人客共に減少した。1月に入り、外国人客は増加しているものの、日本人客は減少傾向にある。
		百貨店 (総務担当)	販売量の動き	・特選衣料雑貨、宝飾品など、高額品の売上が堅調に推移している一方で、紳士服、婦人服などの売上が伸び悩んでいる。全体としてのバランスに欠ける。
		百貨店 (広報担当)	お客様の様子	・高額品の動きは堅調だが、年末あたりから乱高下する株価の影響もあってか、一部の客層に買い控えの動きがある。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・平日は良くないが、土、日、祭日が良いので、それほど変わらない。
		都市型ホテル (経営者)	単価の動き	・来客数の動きと単価の低下が連動しており、余り良くない。
		その他レジャー施設 (経営者)	来客数の動き	・3か月前も今も来客数に変動はない。新規客もなければ、来なくなった客もなく、前年始めに減少した来客数が今もって回復しないまま、何か月も変わらない。このまま、この状況はまだ当分は続く。
		やや悪くなっている	百貨店 (総務担当)	お客様の様子
	衣料品専門店 (店長)		来客数の動き	・今月の来客数は前年比80%、外国人客数は同72%と大幅に減少している。セールでも客の商品に対する姿勢はとてもしびである。
悪くなっている	一般小売店 [食品] (店長)	来客数の動き	・3か月前は来客数、販売量共に順調だったが、年末年始の休みに続き、店舗前の道路が工事のため長期間駐車もできない状況が続いたことなどから、人の流れに影響が出ているようである。	
	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・前年10月の築地市場の移転に伴い、買い出し人を含む市場関係者の来場者数が激減し、午前10時半頃までは閑散としている。救いは、昼前からの外国人観光客の来場が以前より増えていることである。	
企業 動向 関連	良くなっている	卸売業 [機械器具] (営業担当)	受注量や販売量の動き	・年度末に向け、納品、売上が一番多い時期である。
	やや良くなっている	輸送業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・前年同月に比し、受注量が増加している。
		不動産業 (企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・オフィス需給は引き続きひっ迫した状況であり、賃料の増額改訂も順調である。空室が出ても、館内増床でマーケットに出ずに終了している。
		その他サービス業 [ビルメンテナンス] (営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・臨時案件の受注価格は前年比15%増である。3か月前と比較しても5%増ということで、やや良くなっている。
変わらない	出版業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・販売量、雑誌広告本数、販売金額どれをとっても横ばいの状況である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		印刷業・製本業 (営業担当)	取引先の様子	・今年に入り、製紙メーカーが一斉に2割前後の値上げを行ったため、原材料の原価が上がった。しかし、その分を全て販売価格に転嫁することは困難なため、営業利益が圧縮されている。製紙メーカーはカルテルを結んでいるかのように感じる。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注の動きは堅調に推移している。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・建設、ホテル業界をはじめ、AI、RPA(ロボットックプロセスオートメーション)への投資検討がみられる。経営層からするとコストダウン目的ともいえる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・街に人が増えているが、なかなか売上に繋がらないようである。インバウンドも思ったより当てにできないと話している。
		その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当)	それ以外	・東京オリンピック、パラリンピックに伴い、発注関連は活発化しているが、受注金額と人手不足を勘案すると、結果的には二の足を踏む。
やや悪くなっている		出版業(経営者)	それ以外	・作られたアベノミクスの反動が始まる。
		卸売業[機械器具](経営者)	受注量や販売量の動き	・社会情勢の不安定さが原因である。
悪くなっている		-	-	-

#### 4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

( - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店[事務用品] (営業担当)	・3～4月は繁忙期なので良くなる。また、新元号になる時期なので、何らかの影響を期待している。
		百貨店(広報担当)	・米中貿易摩擦等の動向によっては足元は横ばい傾向とみられるが、新元号が発表される4月あたりからは、消費マインドは上向きになる。
		高級レストラン(経営者)	・アジア系観光客は売上に反映してこないが、ビジネス系の外国人客は客単価が高い。欧米系の外国人客は増加が激しく、日本人客を上回ることもある。東京オリンピック、パラリンピックを考えると、来客数は更に増加してくると見込んでいる。
		高級レストラン(副店長)	・4月は歓迎会などの宴会が増えるので、2月に比べると来客数が増える。
		一般レストラン(経営者) 競馬場(職員)	・例年同じことを言っていると思うが、暖かくなると客が多く来てくれるので、今よりは忙しくなる。 ・客の購入額が若干だが上向いてきているので、今後もう少しずつ良くなる。
	変わらない	一般小売店[文具] (販売担当)	・日本人客の減少を外国人客の増加でカバーしている。日本人客の増加に加え、消費マインドが上れば良くなる。
		一般小売店[食品] (店長)	・食品の値上げが相次いで報じられ、節約ムードになるのではと懸念している。
		百貨店(総務担当)	・中国の景気下振れに伴う訪日外国人客の買い控え傾向は、前年にならぬ要素としてこの先も半年は続く。
		百貨店(総務担当)	・高額品の売上は堅調に推移しているものの、不安定な株式市場の心理的影響に加え、免税売上が伸び悩んでいる。
		スーパー(店長)	・EPA妥結によるワイン、チーズ類の税率が下がり、プラス要素はあるが、財布のひもは依然として固く、目に見えて良くなるとは思えない。
		コンビニ(店長)	・ここ数ヶ月の販売動向に主だった動きはなく、特に景気を左右する要因もない。
		都市型ホテル(経営者)	・まだデフレを完全に脱却できていない。
		通信会社(営業担当)	・今回の繁忙期は例年のものであり、全体的な景気の底上げにはなっていない。
		通信会社(営業担当)	・必要最小限の物の購入にとどまり、費用対効果がはっきり分からない商材を購入する客は少ない。
	やや悪くなる	一般小売店[靴](店長)	・米国、中国の経済が不安定なため、やや悪くなる。
		スーパー(店長)	・人口減少で、やや悪くなる。
		旅行代理店(店長)	・ゴールデンウィークで消費するため、その後は手控える可能性がある。
	悪くなる	一般小売店[和菓子] (経営者)	・英国の経済不安や米国の不安定さに追従する日本は、リスクが大き過ぎる。
		百貨店(総務経理担当)	・中国の代理購入規制の影響が出始める。
		一般レストラン(経営者)	・市場関係者、取り分け買い出し人の早朝の取り込みが急務である。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	輸送業(従業員)	・受注量が増えるため、やや良くなる。
		不動産業(企画担当)	・館内テナントからの増床ニーズに関する問合せが多い。
		経営コンサルタント	・天候とともに客の心理も変化する。暖かくなれば、街歩きも更に増え、新たな購買意欲につながると期待している。
		その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当)	・年度末及び元号が変わる前に、完了させたい事案がかなり出てくる。
	変わらない	印刷業・製本業(営業担当)	・原材料の値上がりの影響がどこまで続くか、販売価格にどこまで転嫁できるかで、今後の利益の増減に大きな影響が出そうである。昇給や賞与にも影響が出るかもしれない。
		建設業(営業担当)	・受注量に大きな変化はみられない。
		建設業(経営者)	・現況どおりに推移していくとみている。
通信業(営業担当)	・民間の取引先の多くで、良くなる見通しが立っていない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業〔証券〕（営業担当）	・3月決算企業の来期予算の試算を見ると、売上的大幅な減少を見込んでいる取引先は余りないものの、人件費等を中心とする販管費の上昇から、利益についてはやや下向きと見込んでいるところが多いようである。東京オリンピックに向けたインフラ需要やインバウンドによる消費増を見込む向きもないわけではないが、一般に国内の民間消費について盛り上がりを見込んでいる取引先はほとんどない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・改元に伴う需要増、年末の株価下落の影響の低下を期待したい。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・今年になって来店客の売上高が減っている。月間の売上は前年と変わらないのだが、強気にはなれない。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・市場の移転で卸の仕入客が減少したが、これ以上は減りようがない。観光客は暖かくなってきて増加していく。
		卸売業〔機械器具〕（従業員）	・今年度の受注は一段落し、新年度までは動きはない。受注製作品のコストと利益の推移を注視し、収益確保に努める。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・具体的なプラス材料がない。10月の消費税増税も中小企業には厳しい向きがある。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・新年度に向けて様子をうかがう。どちらかというとしばらくは堅実で、悪くはならないと思うが、良く見えるだけの動きに流されずに中身を確認していきたい。受注も減っており、景気の良い取引先は余りない。
	やや悪くなる	出版業（経営者）	・東京オリンピック前の前振れ景気が終わったら、確実に下降局面を迎える。
		出版業（営業担当）	・新年度を迎えるが、特に大きな企画もなく、経済状況も上向くとは感じられない。
		印刷業・製本業（経営者）	・原材料の値上がり等、状況が悪化している。
		建設業（経営者）	・徐々に工事量が減少しつつある。各社の設備投資も減っていく可能性がある。
		建設業（営業担当）	・仕事量の減少による受注競争が増す。
		通信業（営業担当）	・対中国、対韓国等、国際情勢に不確実な要因が大きい。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・政治の不安定さが経済に影響してくるのではないかと。
	悪くなる	卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・年度末で受注は一区切りとなる。4月より新たな受注に向けての営業が始まる。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	14
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0